

学習はどのような教育サービスを提供すべきか

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。開倫塾では、3月4日に入社式を行い、21名の新しい先生が増えました。そこで、「学習塾はどのような教育サービスを提供すべきか」を、新入社員とともに考えました。学習塾ですから、提供するものはもちろん教育サービスですが、生徒の皆さんにどのようなことをサービスとして提供し、それぞれの抱える問題を解決していけばよいのかということも、絶えず考えていかなければならないと思います。学校でもこのようなことを考えなければならぬかもしれませんので、ご参考までにお聞き下さい。

学習塾は、「授業がよくわかる」、「定期試験や実力試験でよい点数が取れて、学校の成績が向上すること」などを目的とする、つまり、よく言われる補習が仕事の一つです。また、生徒の皆さん一人ひとりが希望する上の学校(開倫塾では、これを一人ひとりにとっての一流校と呼んでいます)の入学試験に合格するための受験指導も業務の一つです。

ただ、今までの補習授業や受験指導だけで生徒の抱えるすべての問題解決になっているかということ、当面の問題解決にはなっていると思いますが、十分ではありません。ほとんどの生徒に確実に訪れる近い将来の問題に、学習塾はじめ教育機関は強い関心を向けていかなければならないと思います。開倫塾のミッション(使命)は、塾生の成功の実現に貢献することですので、近い将来の問題の解決にとりわけ関心を向けなければならぬと思っています。

では、生徒たちの近い将来に訪れる問題とは何でしょうか。高校を卒業したあと、ほとんどの方が大学、短大、専門学校などの高等教育機関に進学します。その高等教育機関が抱える現代の最大の問題は何かというと、学生たちの学力不足です。多くの高等教育機関は、学生の学力不足を解消するためにいろいろな取り組みを開始しています。高等教育機関に進学するのは、高校卒業生全体の7～8割にのぼるのですから、本来なら小・中学校、高等学校で学ぶ間に高等教育機関の勉強に耐えられるだけの基礎学力を身に付けさせるべきです。ところが、以前から言っているように、文部科学省の示す教育課程は、もとは学校での指導の到達目標だったのですが、最近はこれだけは最低教えてほしいという最低基準へと変更されて、学校現場を大混乱に陥らせているのです。要するに、大半の生徒に、高等教育機関での勉強に耐えられるだけの基礎学力を身に付けさせられる状況にはないということです。

ですから、せっかく高等教育機関に進学しても、基礎学力が足りなくて十分な勉強ができないという学生も出てくるわけです。もちろん景気も左右しているのですが、基礎学力の不足も原因といえるのか、フリーターや、腰掛けでよいから仕事に就こうという考えの方が増えている気がします。そのような学生を減らすためにも、我々学習塾は、高等教育機関の勉強に耐えられる基礎学力を身に付けさせる努力をしていかなければいけないと思います。